

## 「2022年度中国・浙江大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学文学部3年 廣瀬優衣

今回の浙江大学オンラインスプリングスクールに参加したことで、私は次のようなことを学びました。

## ① 学習成果

10日間の中国語講座を受講し、初級レベルの会話文を教材として会話、リスニング、文法の3つの視点から学習を進めました。会話（口語）の授業では、積極的に話す態度を心がけました。例えば、わからない質問であっても講師の先生と意思疎通を図ることや、中国語ネイティブの方と話すことが出来るという貴重な経験をみすみす逃すことがないように、他の方の迷惑にならない範囲で真っ先に手を挙げることを意識しながら受講しました。その結果、間違えることに対する恐怖感が薄まりました。また、京都大学で中国語の講座を受けていたときよりも自信を持って学習に取り組めるようになりました。リスニング（聴力）の授業は、自分には少し難しく、授業内で理解することが困難でした。そこで、授業終了後に出された課題のリスニング問題をゆっくり聞き、ディクテーション形式で聞いて書き取る事で内容をまず理解し、次回の授業について行けるよう工夫しました。そうすることで、授業について行くことが可能となり、また集中的に中国語の音声を聞いたことにより他の会話、文法講座における理解も深まりました。文法（精読）講座は、毎日行われたため、前回授業で教えていただいたことを記憶が薄れてしまう前に復習することが出来、より学習が効率的に進みました。また、毎回の授業で漢字練習が課題として出され、それを行うことでより実践的に使うための学習が可能となりました。毎日講義があった分、復習もおろそかになりがちであり、当初は復習と予習のバランスに悩みましたが、授業終了後すぐに復習を行って、より強力に記憶することを図り、予習を軽くすることで、効果のある学習が出来たのではないかと思います。

## ② プログラムでの経験

プログラムで印象的だったことの一つに、中国浙江大学の学生の方々との交流会があります。同世代の彼らとお話しさせていただくことが出来たのは、自分にとって大きな刺激でした。彼らは非常に友好的で、オンラインでのビデオ通話という通常とは異なる状況でも積極的に話をしようとしてくれました。この彼らの態度を満ち、私は、積極性がいかに重要かと言うことを教えてもらったと感じております。

## ③ プログラムの内容

今回のプログラムを概観して、私が感じたのは、このスプリングスクールが非常に「濃い」ものであったということです。毎日中国語をネイティブの先生に教えていただけること、中国の学生の方々との交流できたこと、そしてなにより我々学生を支援する教職員の方々のサポートが手厚かったことがその主たる理由です。浙江大学のプログラムでは、中国語を学ぶ上で悩んでいることはないかという面談の時間がありました。フィードバックをいただけたことによって自分の学習スタイルの見直しができました。これが、挫折せずにやりきれた一つの理由であると考えております。

## ④ 進路への影響

これまで、私はフランス語を将来に役立てる道具として見立て、フランス語に労力を注いで参りました。中国語はいわば第3外国語として、あくまで個人的に興味があるからという理由で勉強していました。しかし、この経験により、中国語をもっと勉強し、ネイティブの方と自然に会話できる程度まで勉強した方が良く考えるようになりました。今回のプログラムで、私は、中国語の重要性やそれを学ぶこと

の楽しさ、そして何より中国という文化の持つ素晴らしさを垣間見ることができませんでした。この経験により自分の考え方も変化しました。中国語も将来必要になると考えるようになりました。また、中国浙江大学の方々との交流により、自分を見つめ直すきっかけを得ることが出来ました。そこで自分の強みや特性、何が出来るのかと言うことを鑑みたとき、英・仏・日の三言語だけでは他に埋もれてしまう、同世代の人に勝つことが出来ないと考えました。今私は、中国語を趣味程度では終わらせず、自分が一つ頼ることの出来るアイデンティティとして確立させたいと考えております。

最後に、京都大学、浙江大学の教職員並びに事務職員の皆様に感謝申し上げます。  
本プログラムでは多々ご迷惑をおかけし大変申し訳ございませんでした。